令和４年度　児湯るぴなす支援学校　学校評価のまとめ（職員、保護者、学校評議委員）

〇評価区分　4：期待以上である　3：ほぼ期待どおりである　2：やや期待を下回る　1：改善を要する

	児童生徒一人一人のいのちを尊重し、それぞれの多様な学びにきめ細かく寄り添い、支え、地域とつながる日々の学校生活を通して、児童生徒が共生社会の一員として、自分らしい生き方を創造することを目標に、保護者・地域から信頼される活力ある学校づくりを進める。
経営ビジョン	1 安全安心な環境を創る体制整備　・情報メールを活用した児童・生徒等の安否確認及び情報共有・防犯訓練、防災・避難訓練等の計画的実施と防災教育の強化・校内の安全環境の整備及び地域との連携・医療的ケア体制の連携強化 2 社会の変化を踏まえた専門性の習得　・ＩＣＴ機器等を活用した学習活動の研究及び推進・「授業力の向上」を中心に据えた校内研究、校外研修の充実・外部専門家との協働による研修の充実 3 個が輝く教育課程の充実・個及び協働の学びを支える教育課程の実施と検証　・キャリア教育の視点をいかした学習活動の展開・地域の人材や資源をいかした多様な学習活動の推進 4 地域支援・連携の推進　・小・中学校、高等学校との交流および共同学習の推進・地域における学校、各機関が有する特別支援機能強化の支援

項目		保護者評価	職員評価	具体的方策	学校の自己評価(主な成果・課題等)		学校評議員評価・感想等	今後の改善策
重点目標1	安全安心な学習環境の整	3，3	3，3	情報メールを活用した児童・生徒等の安否確認及び情報共有 防犯訓練、防災・避難訓練等の計画的実施と防災教育の強化 校内の安全環境の整備及び地域との連携 医療的ケア体制の連携強化	・医療的ケア体制の連携強化では、看護師の退職による看護師不足や、コロナ禍による感染不安の中でのケアの実施であった。そのため保護者に負担をかけることとなった。その際に保護者への説明が十分でなく感染症等の説明など課題が残った。しかし看護師の体制等については、今年度、地域の訪問看護ステーションと連携することができた。今後の連携強化に向けてさらに地域と進めていきたい。 ・防災等訓練や防災教育に関しては、地域の資源を活用し進めた。今後は地域の自治会や役場等と連携しさらに強化をしていく。また津波に対する備えとして、施設として不安を感じている職員、保護者もおり、今後も関係機関と連携し適した避難場所や避難方法について情報収集、検討を進め、それを実際に防災教育、避難訓練で実施していく。 ・避難をスムーズに行うための施設の改善（スロープの増設、通用門の設置）を行った。 ・学習環境については、県と検討し児童・生徒の誰もが安心して、健康に活動できるよう進めていく。（バリアフリー化　渡り廊下の改善等） ・保護者、職員向けの情報メールソフトを変更し、よい多くの情報を伝達できるように改善した。	4.0	・県の想定では、学校のある地域はそこまで高い津波はこない。 ・学校が訓練している校舎の２階への垂直避難は、高さは大丈夫であるが、校舎の老朽化もあり不安がある。また、垂直避難は緊急な場合の方法と考える。 ・高さ的には運動場に避難し、その後情報収集が大事である。情報収集には新富町が配布した防災ラジオが適している。 ・今別府地区集会所を非難することを想定しているが、訓練を次年度行っておく必要がある。しかし、200名の収容は難しい。 ・地域を巻き込んでの訓練が必要である。現在学校の担当者と進めている。 ・発電機は必要である。カテゴリー別に数種類の発電機を準備しておくとよい。 ・今後の防災教育に東京消防庁の防災アニメが有効である。 ・県への提言として、ＶＲを使った訓練が有効で県が準備をしてほしい。また地域に起震車を配備し、支援学校へ巡回するとよいと思う。	【安心安全な環境】 ・校内の環境整備については事務室を中心に連携して進めていく。 ・防災は町の評議員でもある危機管理専門員の方と連携し、避難訓練や防災研修を進めていく。また地域の自治会等とも防災に関する会合をもつことにしている。ＰＴＡ活動においても防災研修を計画し、保護者と合同の避難研修を計画する。 ・医療的ケアにおいては、保護者の思いや意見を聞き、学校の対応を一緒に検討していくために、対象児童生徒保護者とのケース会を管理職交えて関係者で開催することとした。また、主治医との連携を保護者と一緒に行っていく。 【専門性の習得】 ・ＩＣＴに関しては、今後も情報教育部を中心に研修を行っていく。オンライン研修や外部講師も活用していく。 ・保護者と一緒に考え、タブレットの活用にともなって起こりうるトラブルや問題を解決できるよう呼びかけ一緒に研修していく。 ・地域と連携し、研修を行っていける体制作りを検討していく。オンラインで小中学校の先生方が本校の授業参観を行ったり、逆に本校の職員が小中学校の様子をオンラインで知ることができるよう工夫をしていきたい。 ・昨年度から、本校を地域へ啓発していくことが課題であったが、今年度からＳＮＳを活用した情報発信を積極的に行っている。また西都原考古博物館での「るぴなすアートフェス」の期間を延ばすなど啓発に努めている。 ・今後は地域の人材、資源活用を積極的に進めていくために今年度交流等を各学部が進めてきた。今後も積極的に活用していきたい。 ・オンラインでの研修を積極的に活用し、専門性の向上を図っていく。 ・居住地校交流を行うことで、週末地域の友達と一緒に活動することも増えてきている。今後も地域の小中学校と交流を進め、地域での生活を豊かにできるよう進めていきたい。
重点目標2	主体的に学び続ける職員集団の育成	3．2	3．1	ＩＣＴ機器等を活用した学習活動の研究及び推進 「授業力の向上」を中心に据えた校内研究、校外研修の充実 外部専門家との協働による研修の充実	・ICT機器の活用については、児童生徒に一人1台のタブレットが配備され学習に活用している。児童生徒の興味関心も高く積極的に活用に取り組んでいる。児童生徒が十分に学習で活用できるように、職員が教材の作成等準備をする時間を確保していくのが課題である。会議等を検討し時間創出を考えていく。 ・ＩＣＴ機器の活用に慣れるにしたがって起きうる問題を保護者と一緒に考え、対策を検討し児童生徒に理解を促していくことが大切である。 ・校内研究については、「児童生徒の表現する力を高める授業作り」をテーマに行った。自分の思いをどう伝える力を大事に考え各学部が授業の中で実践を行った。その中でＩＣＴを活用し、実態把握をしっかり行いながら伝える力を身につける授業実践をおこなった。次年度も継続して行っていく。 ・昨年度の課題であがった保護者への啓発は十分にはできていないため、保護者に向けて丁寧な説明は行っていく。 ・職員研修に関しては、コロナの影響もあり、対面での研修は難しくオンラインでの研修が多く行われた。演習やワークショップは難しいものの、普段は参加することが難しい遠方の講師による研修を受けることもできた。今後はハイブリット型など工夫をし多くの研修に参加できるよう企画したい。	4.0		
重点目標3	個が輝き合える魅力ある学校づくり	3．2	3．2	個及び協働の学びを支える教育課程の充実 キャリア教育の視点をいかした学習活動の展開 地域の人材や、資源をいかした多様な学習活動の推進	・保護者から、学年ではなく障害にあわせた（実態に応じた）クラス編成をしてほしいとの意見をいただいている。実態を考慮した教育課程の運用、個の輝く教育課程の編成を課題に研究していく。 ・個別の指導計画、個別の支援計画については、昨年度書式を見直し作成を行った。それらを含む職員の作成の時間を確保するための工夫を行い保護者に説明し了承をいただいた。 ・教育課程については、児童生徒一人一人の実態を十分に考え、保護者の考えを担任が中心となり個別面談等で聴き取り反映させることを行った。 ・キャリア教育については、小、中、高の連携、連続性に課題が多く、今年度進路支援部を中心に次年度に向けて「キャリアパスポート」を中心に検討を行った。その結果、進路調査や連続して指導していくための手段など変更を行い次年度から行っていく。 ・「児湯財団」サッカープロチームの「ヴィアマテラス」との交流など地域の人材をいかした学習活動が行われた。高等学校との交流から発展した、福祉、民間、行政、教育の活動も進行している。 ・地域への啓発は不十分なため、ＳＮＳ等を活用し行っていく。	4.0		
重点目標4	地域支援・連携の推進	3．1	3．1	小・中学校、高等学校との交流及び共同学習の推進 地域における学校、各機関が有する特別支援機能強化の支援	・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、対面での交流が難しい時期もあった。二学期以降は訪問、来校しての交流が行えた。児童生徒は交流を楽しみにしており積極的な活動が行えた。居住地校交流など、日常生活の中に生かしていけるように交流校と連携して今後も進めていく。 ・高等部は、上記にあるように、民間「ＴＵＴＡＹＡ」福祉「しろはと工房」行政「高鍋町役場」と連携し、作業学習において販売学習を行う計画を進めている。 ・県の事業としての「交流籍」は昨年度終了した。以前は高鍋町とは同様の取組を行っていたこともあるので、今後地域と連携し進めていけるとよい。 ・チーフコーディネーターを中心に、地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校、高等学校からの要請相談や巡回相談を行っており地域からのニーズは非常に高い。校内はコーディネーターを中心に相談、支援会議、支援と行い、また関係機関とも積極的に連携することで保護者のニーズも高くなっている。今後も地域、関係機関と連携し支援を行っていく。 ・オンラインを活用し、地域の学校と授業研修などを進めていけるようにしていきたい。	4.0		